

## 他人を思いやる気持ち

松岡 敬

奨励者紹介〔まつおか たかし〕

同志社大学長

同志社大学理工学部教授

〔研究テーマ〕機械設計、複合材料

わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。」

(ヨハネの黙示録 21章1―4節)

### はじめに

本日は、お集まりいただきありがとうございます。

同志社大学長として逝去者追悼礼拝のメッセージを述べさせていただきます。

2005年4月に起こったJR福知山線脱線事故及び福島バス事故の犠牲となった本学学生を覚えて、毎年4月に追悼礼拝を行ってきました。これらの礼拝にはご遺族・友人を始め、多くの方々が出席され、故人を思い起こす大切な機会になっています。

2009年度からはこうした経緯を踏まえ、さらにこれまでの同志社大学の長い歴史において志半ばにして在学中に亡くなった学生、そして在職中に亡くなった教職員の方々を含め、追悼の意を込めて追悼礼拝を行っております。残念ながら、お亡くなりになりました同志社関係者の皆様の魂の平安を心よりお祈りいたします。

大切な人を亡くした深い悲しみ、また故人に対する思いを、すべてを語り尽くすことはできません。それは言葉で表現できないものだからです。それは沈黙の闇の中で我々の心の中に語りかけてくるものなのかもしれません。愛する人、大切な人を失うことで初めて、私たちはこのような悲しみを体験するのだと思います。

人を愛する気持ちを大切にできる人は、人生にとって最も素晴らしい生き方をしている人ではないかと思えます。

ご承知のように、同志社の教育理念は「キリスト教主義」、「自由主義」、「国際主義」です。私は学長就任以来機会があるたびに3つの主義を次のようにそれぞれの心に置き換えて表現し、話しかけています。「自由主義」は「個人を大切に作る心」、「キリスト教主義」は「人を敬い愛する心」、「国際主義」は「広い視野で世界を見つめ理解する心」と考えています。実は、このように置き換えて考えてみると、私たちは

どのように生きていかなければならないか、いつか自分の人生を映し出す鏡を得ることができるのではないか、と思うからです。皆さんに共通したことだとは思いますが、いつまでも当初の夢を追いかけるには強い気持ちを持ち続けなければなりません。しかし、その夢を持ち続けて生きることはそんなに容易いことではないのです。それこそが人間なのかもしれません。一方、この苦しみこそが人を成長させるエネルギーになると思います。そして、私はこれらのエネルギーはさまざまな形で得ることができるのだと思っています。特に私たちは自分自身が実は想像を遥かに超えたエネルギーを持ち得た存在であることに気付くことが大切だと思っています。人の価値は計り知れないものがあります。そのことを信じて生きることで自分だけではなく同じように、他の多くの人もその莫大なエネルギーをもっていることに気付くはずで、このことに気付くために何よりも大切なのは、人への温かい愛情と思いやりだと思っています。だからこそ人を大切にす気持ち（思いやり）が生まれることにもなります。さらに次のステップへと私たちが生きていくためのエネルギーに繋がるのだと私は考えています。

それではこのような思いやりを身に付ける、自然に行動できるためには何が必要なのでしょう。人間は感情で動くことのできる生き物であることが、我々の生き方に大きく影響をもたらすところがあると思っています。私たちは何かの行動をとる際に「どうしてそのような行動をとったのか」との問いに対して、論理的にその行動の価値を意識して行動した、とする場合もあるでしょう。しかし、対社会や人とのかわりの中でとる行動は、世間への影響や周りの多くの人たちの気持ちを意識しながら（配慮しながら）行動しているはずで、実はそこには論理性と同時に感情が含まれていると思うのです。その感情の根底には「信頼関係と協調性」があるからだと思います。ここで大切なのは、「信頼関係と協調性」は上司や親からの指令ではなく、自分の感情から生まれてくるのです。おのずから人それぞれの考え方は異なるわけですから、違った行動に出ることは当たり前です。そこに個人個人の良さが生まれ、個性として息づいていくでしょう。このことは同志社の教育理念である「自由主義」と繋がる場所かもしれません。

もう一つ強調しておくべき点は、この「信頼関係と協調性」は人間が生きるために必要であるということです。

社会の中で人と人がコミュニティーを作り、安全に安心して生活するためには仲間同士に信頼関係が生まれなければなりません。同時に、生活をしていく中で協調性が養われなければ、その集団から離れざるを得ない事態に陥ることになります。ここで重要なことは、その集団の社会環境がどのような環境であるのかが実は最も大切な点なのです。人の気持ちを踏みにじり、生活の邪魔をし、生きる力をなくすような行動をとるコミュニティーの環境であってはならないのです。そのような最悪の環境から養われた「信頼関係と協調性」は私が今述べている「信頼関係と協調性」とは真逆のものであるのです。その意味では人の育つ環境が大切だということになります。

### 信頼関係と協調性を得るには人を信じることから

混沌とした社会の中で生きていくことは本当に大変です。自分の夢を追いかけて実現するには、多くの困難な事態に出くわすことだと思います。希望をもてない世の中だからこそ、人を信じる自分でなければなりません。そのためにはただ立ち止まってじっとしているだけでは駄目です。行動する中から、いろいろな経験や多くの人との出会いから、自分の人生を開花させる生き方をしてもらいたいです。もちろんその

過程の中で不満に思うこと疑問に思うことなど、しっかりと物事を見つめる力、つまり洞察力が大切なのです。そのためには多くのことを学び、知識を吸収し、自分の頭で知恵を出し、未来を創造する力を養わなければなりません。そして長い人生の中で、必ずあなたと同じ考えの人たちがあなたのパートナーとなって存在することになると思います。そして共に考え、知恵を働かせてさらなる創造へと繋げていかなければなりません。この行動は同時に皆さんの生きる希望へと繋がるはずです。

### 深い洞察力を養う

今まで述べてきたように、物事を判断し創造するには人一倍学ばなければなりません。学ぶことにより私たちは多くの情報を集め、その情報から得たことの良し悪しを判断する力を身に付けなければなりません。生きる力に必要なのは、実は知識と知恵なのです。知識がなければ深い洞察力を身に付けることができません。人が言っていることをすべて信頼するのではなく、時には疑いの目で見て、考えることができる知識が必要です。最近、個人が直接情報を得ることができるSNSや LINE など身近な情報源がたくさんあります。もちろん多くの人々が同時に情報を得るためのテレビ、新聞も同じです。しかし、その情報は本当に正しいのか、何が重要なのか（重要な点は一体何か）など、しっかりと自分で考える力（洞察力）を身に付けてもらいたいです。表面的な部分を見るだけではなく、その陰に隠れている本来の姿は一体何なのか。私たちは理性で判断し生きなければならぬ。この重要性についても理解していただきたいと思います。

もう一つここで大切なことがあります。それは、あなた方が養った深い洞察力で得た真実を、他の人々にも伝える義務があるということです。その行動から最終的にはあなたへの信頼が生まれるのだと思います。自分の得意なところ、苦手なところ、それをみんなが知ってくれることでお互いのコミュニティーが深まり、それぞれの生き方の質が高まることになるのです。このように考えると人の考え方や気持ちを知ることの大切さがお分かりになると思います。この気持ちこそ「思いやり」だと思うのです。

### 思いやりは信頼感から、そして失敗を恐れない

先ほども話しましたが、コミュニティーについて考えてみましょう。コミュニティーは価値観や信念や考え方などが共通する人々の集まりです。これは国家や企業等においても同様のことが言えると思います。特に同じ価値観や考え方の集団には明らかに信頼関係が生まれると思います。そしてお互いが信頼できる環境が生まれることに繋がるのです。

信頼関係が生まれると、実はいろいろな挑戦を試みようといった未来を志向する力が生まれます。これもまた人を成長させる大きなエネルギーになるのです。もちろん失敗も伴います。失敗を恐れて何もしないのは、現状維持で不満もなく、これで満足だと思っているからではなく、挑戦してみようという環境があなたの周りに存在しないからなのかもしれません。一概にそう言えるかどうかは微妙ですが、全く外れているとも言えないと思います。

私は機械設計を教えているのですが、授業の中で時々紹介する本に『失敗学のすすめ』（畑村洋太郎 講談社 2005年）があります。飛行機事故や橋の崩壊など、これまでに起こった事故例を取り上げ、失敗から科学技術が進歩し、より安全で信頼のある機械構造物の設計技術や、新たな学問が生まれたこ

とを紹介した本です。我々の人生においても同じであり、誰もが成し遂げたことのないことをやるには探究心が必要なのです。失敗をしても許してくれる思いやりをもった仲間がそのコミュニティーにいるから取り組めるのです。失敗しても恐れず挑戦できるそのような環境が我々の人生には大切だと思います。

また、失敗をすることで何が足らなかったのかを、はっきりさせることができます。ただ、何をもって失敗とするのかは人それぞれです。先ほど述べた機械設計では、機械がうまく動いたかどうか答えになります。人の生き方はすべてそんな単純なものではないのです。失敗の基準は人それぞれですから、失敗とはどういうものか、ぜひあなた方の人生の中で、挑戦と失敗の繰り返しから学び取っていただき、一つの基準を見つけ出してもらいたいと思います。

一方で失敗を受け入れる寛容な気持ちをもつことも大切です。

### 信頼と寛容のあるコミュニティーが人を育てる

機械を設計し、作り上げることは一人でできるものではありません。絶対無理だとは言いませんが、失敗したときの大きなダメージを個人ひとりに残すことになるかもしれません。それだけの強い精神力とやる気は欲しいものですが…。しかし、チームを作り機械を設計し、機械を作り上げることで技術者は素晴らしい能力を発揮することが可能です。人はそれぞれ得意なところが異なるので、そのチームワークによって到達目標を高く設定でき、その達成力を向上することが可能です。さらには自分の得意分野をより質の高いレベルへと導くことにも繋がる可能性があります。このように考えると、自分ができないことを積極的にこなすことのできる人材をどのように集め、組織を作るかが大切です。つまり、良いコミュニティーは人を育てる環境を作ることに繋がるのです。このことは新島が言った「人一人を大切にすると通じるころがあり、個人個人の個性をのばすことのできるコミュニティーが大切だと言っているのかもしれない。そして許しあえる寛容な人々のいるコミュニティーはこれからも長く生き残っていくのだと考えたのかもしれない。同志社は、実はこのような学園であることをあらためて認識していただきたいと思います。

### 安定した環境は絆から

これまで述べてきた環境を強固なものにするには、やはり信頼関係が必要です。絆を深めるための努力を常に意識しながらコミュニティーを守っていかなければなりません。私たちはそのために、人それぞれの個性を大切に、その人の思いや考えに耳を傾けることで理解を深める必要があります。そのためには思いやりをもって人と接し、相手の考えを知ることが大切です。乗り越えなければならない多くの問題はありますが、愛をもって人生の大切な時を過ごしていかなければなりません。そして積み重ねてきた時が固い絆を作ることになるのです。

そのためには、これまで述べてきたように、人への「思いやり」が大切ではないかと思っています。実はこの「思いやり」が同志社大学の建学の精神である「良心教育」にも繋がるのだと私は考えています。

今日の話から「思いやり」をいつまでも大切にしなければならぬことを感じ取っていただきたいと思います。また、大切な人を失ったとしても、我々はいつまでも、その人への「思いやり」をもち続けなければならないとも考えています。無茶なことを言っていると思われるかもしれませんが、それは愛へと繋がっているからです。

我々は一人で生きることはできません。常に多くの人たち、それは親であり、友であり、共に支え合いながら、お互いを信じ、理解することで豊かな人生を送ることができるのです。繰り返しになりますが、私たちが常に忘れてはならないこと、それは「思いやり」をもって人を愛することです。「思いやり」は多くの場合、「優しさ」とも感じるでしょう。常に相手の気持ちになり、話を聞き、問いかけに対して、真剣に答える。この気持ちは必ず相手に伝わります。その結果、お互いの強い信頼関係と協調性を築くことになるでしょう。我々は一生の間に多くの人々に出会うと思いますが、その中で深く思いを語り合える人に何人出会うことができるでしょうか。その一人ひとりが、私たちの生きるための宝物であり、生きた証なのです。そして、その多くに出会いが豊かな人生を送ることに繋がるのではないのでしょうか。

生きることの質を再度我々に問いかけ、一日一日を大切に生きていかなければならないと、新たに心に刻み込まなければなりません。このことを最後に述べ、終わりたいと思います。

2017年4月19日 京田辺水曜チャペル・アワー「逝去者追悼礼拝奨励」記録